



今年も大雨被害と土砂災害が多発しているが、その原因は積乱雲である。

シュークリームの背を高くしたような形の雲を積雲と言いい、この雲が空高くムクムクと頭をもたげると、入道雲になる。入道雲の頭の丸い部分が水平に広がりましたのが積乱雲、つまり雷雲である。

雷は、雷雲の中で生まれるとても電圧の高い電気なので、雷雲の中には発電所があると思ってもいい。雷雲の中ではほとんどん電気が蓄えられ、いっぱいになると空気の中を無理に流れる。これを放電と言いい、雷のことである。

この時の電圧はおよそ10億Vで、3万Vというすごい電流

今月のお題
積乱雲に注意

16

が空気中を通る。空気はもともと電気を通しにくいので、3万Vもの電流が通ると、空気との間で何万度という高い熱が起き、光を出す。この光が稲妻である。

強い電流が空気中を通る時、空気は急に膨らんでまわりの空気をおしつけ、空気を

振動させる。この音が雷鳴(雷の音)である。

光の速さは1秒間に地球を7回半回り、音の速さは1秒間に340mと大きな差がある。従ってピカッと光ってからゴロゴロと鳴るまでの秒数を1、2、3と数え、光ってから鳴るまでの数に340を

掛けると雷までのおおよその距離が分かる。10秒間だと3・4キロ、3秒間だと約1キロとなつてかなり近い。そこで、雷事故に遭わないため、次の三つを覚えよう。

①雷が近づいたら体をかがめ、姿勢をできるだけ低くする。山にいたら山頂や尾根を避け、くぼ地に避難。ゴルフ中であればバンカーに入る。

②部屋の中では中央が安全。水は電気を通すので台所仕事やお風呂はあとにする。

③雨が降っても、木の下は危険。高い木や塔から離れて姿勢を低くする。

また、積乱雲は雷のほかに集中豪雨をも引き起こす。そこで、積乱雲(雷雲)が近づいている兆し「真っ黒い雲が近づいてきた」「雷の音が聞こえてきた」「急に冷たい風が吹いてきた」を早めに察知し、間もなくやってくると思われる激しい雨や雷、竜巻などの激しい突風から身を守るようにしよう。

梅雨末期に入った青森県。梅雨前線の北上、停滞、活発化によっては、お天気ことわざの「雷三日(雷が鳴ると3日くらい続くという意味)」や「梅雨明け十日(梅雨明けから10日くらいは安定した夏空と暑さが続くという意味)」といった天気が現れやすい。地球温暖化が一向に収まらない中、大雨や暑さを含む激しい気象現象がこれまで以上に増えるだろう。自分の身は自分で守るという防災の原点を心得よう。

(工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住)

※次回は8月15日に掲載予定。



激しい雨の中、稲妻が走り雷鳴が響いた青森市上空=2012年5月

雷や豪雨引き起こす